

# 肝細胞癌におけるダイナミックCT所見と病理所見の比較

## 【はじめに】

肝細胞癌は、造影剤を使ったCT検査で、最初に強く染まって、すぐに洗い出される（造影剤が逃げていく）ことが知られています。最初の染まり方の機序および臨床的な意味については、複数の報告があります。これまで洗い出しについてはあまり注目されていませんが、実は臨床的に大きな意味を持っている可能性があります。

## 【対象】

九州大学病院で肝細胞癌が切除された症例のうち、術前にダイナミックCTが撮影された方の画像（期間：2006年1月から2010年5月）を対象としています。

## 【研究内容】

造影剤を使った後のCTで強く染まる肝細胞癌の洗い出しパターンを病理所見と比較して、その機序や意味について検討することです。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究期間】

研究を行う期間は承認日から2011年7月31日

## 【医学上の貢献】

洗い出しパターンを評価することで肝細胞癌の病理が推測できれば、従来通りの検査の範囲内で、付加情報が得られます。治療法や経過観察の間隔の決定に役に立つと考えています。

## 【研究機関】

九州大学大学院	臨床放射線科	教授	本田 浩（責任者）
		助教	西江昭弘
	形態機能病理	大学院生	藤田展宏
	消化器・総合外科	講師	武富紹信

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel：092-642-5695 担当者：西江昭弘